

關西急行電鐵 建設工事成る

大阪名古屋間三時間 のスピードアツプ

大阪電氣軌道株式會社 土木部長
參宮急行電鐵株式會社

鈴木角一郎

關西急行電鐵株式會社の名古屋、桑名間の
新線開通は、その親會社たる大軌、參急兩會
社が多年の宿望たる、伊勢大神宮、熱田神宮、
權原神宮の三大聖地を連絡する捷徑にして、
且又大阪、名古屋の二大商工都市を連絡する
電車運轉を完成するものである、本工事の半
に於て今回の支那事變の非常時局に遭遇せる
も、工事材料調達之難關を切抜けて此の目的
を達成し得たるは、關係各方面の御指導と御
助力に據るものと深く感謝する次第である。
時局柄本路線が、國民精神昂揚と、産業擴充
とに貢獻する處大なるを期待するものであ
る。

工 事 概 要

會社設立、昭和11年1月24日

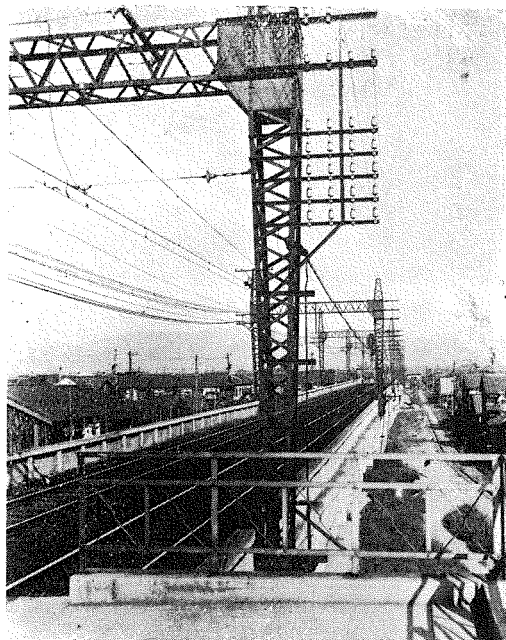
敷設免許線、桑名、名古屋間23軒7

桑名、木曾川信號所間約6軒半は架設橋梁の
關係上、列車運行に困難を認めざるため單線
とす。

線路の曲線は最小240米。最急勾配1000分
の33。名古屋驛附近に525米の地下隧道路線
を敷設し、其他路線築堤は、省線を數箇所
に於て横斷する關係上、自然高くされた。本
路線工事唯一の隧道掘鑿は、名古屋に於ける
最初の地下路線で、其の構造は複線函形鐵筋
コンクリート造とし、終點にはプラットホーム
二ヶ所、線路3、6輛又は2輛編成列車が自由
發着可能の設備である。地下ホームには、出
札・改札等の設備をなし、將來名古屋鐵道と



(1) 起點大軌停車場全景。



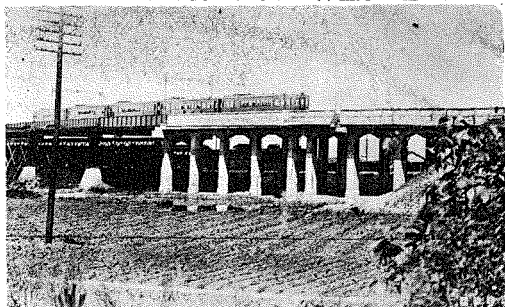
(2) 大軌線今里驛より高架線を見る。



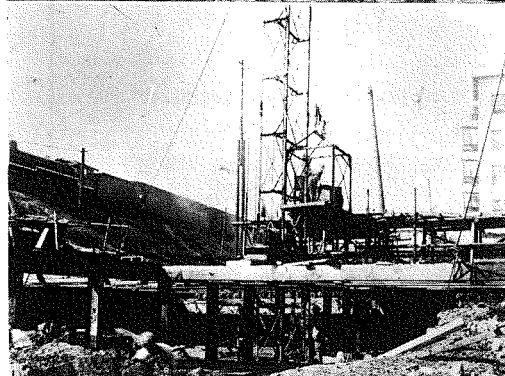
(3) 揖斐川橋梁・左岸より桑名方を望む。



(4) 木曾川橋梁橋・右岸より古屋方を望む。



(5) 彌富跨線橋附近。



(6) 名古屋驛乗八地下線工事中の状況。

共同驛ビルディング建設の豫定であり、同ビル地下室及一階驛ホームとを建絡し、旅客交通誘致の大計を樹立してゐる次第である。尙地下線の間中より、東方に分岐して名古屋鐵道枇杷島、熱田間の地下計畫線に接續し得ることになつてゐる。一面省線驛舎とは地下道により連絡し、自由に省線ホームとの通行可能であり、關急路線最終端直上に木造の假驛舎を設置し乗降旅客の便利に供する事になつてゐる。

路線の本工事に於て、最も苦心を重ねたるは、二大鐵橋の補強工事であつた。之は掛斐長良の200呎桁15連、120呎桁1連と、木曾川200呎桁13連、120呎桁1連である。同橋梁は元省有の拂下品であり、桁様式は、ワーレン式の舊法で、強度著しく弱く、之が爲に特殊工作によつて、補強工事の完璧を期した。省線横斷橋は、路線の状態を悪化せざる爲、交叉角13度乃至15度のき急角度桁を採用し、設計の苦心、工事の困難を重ねて見事完成した。驛舎建設には、延長23軒7分の中間に、掛斐川、長島、彌富、佐古木、蟹江、伏屋、八田、米野の八停車場。戸田、烏森、黄金の三停留場。木曾川の一信號所が設置されてゐる。

軌條間隔は3呎6吋(1米67)を採用し、參急伊勢線とのゲージに合はせ、參急本線とは江戸橋驛にて連絡することにし、同一ホームに於て乗換可能となしたのである。

保安置置は、信號機に於て三位色燈式、自動閉塞式を採用し、聯動裝置は主として進路手柄式繼電を用ひ、木曾川信號所の如きは、長島よりの遠方制御とした。

送電は東邦電力株式會社より交流三相三線式60サイクル、1,100ヴォルトの電流を伏屋變電所に於て受電してゐる。

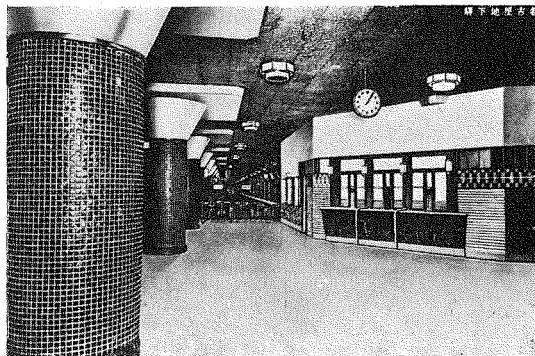
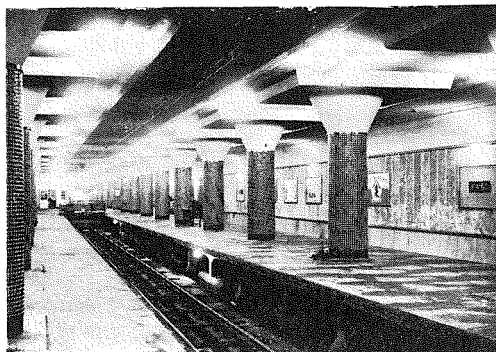
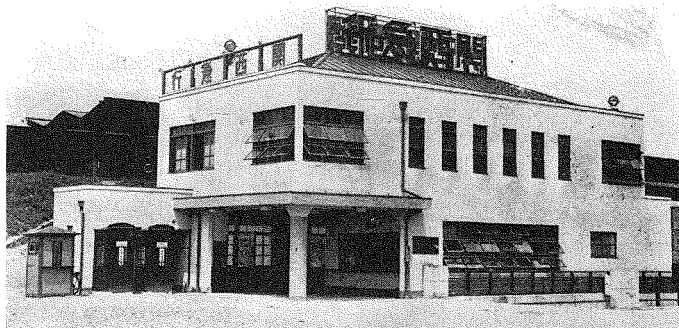
配電線は、交流三相三線式3,300ヴォルト、饋電線は、直流單線式1,500ヴォルト、電車線は架空單線式である。

變電所の出力は、1,500ヴォルト、2,000キ

(7) 名古屋驛に於ける關西急行専用の乗客出入口。

(8) 關急名古屋乗降ホーム

(9) 關急名古屋地下停車場



ロワットで、廻轉變流機、容量1,000キロワットで、變流機用變壓器2,100キロワット・ボルト・アンペア二基を据付けたのである。

建植柱は主として、クレオソート注入柱を使用し、特殊箇所のみ、鐵柱を採用した。

車輛は、重量定員荷重46噸、定員104人、長17米8、電動機125馬力4個、最高速度110軒時、半鋼製4輛ボギー電動客車10輛を備へ、伊勢線車輛をも直通にさせてをる。

種 別	距 離	着 手 年 月 日	請 負 者
桑 名 地 内	2 軒580	昭和12年4月21日	株式會社西松組
長 島 地 内	1 軒830	同 年2月23日	佐藤工業株式會社
木曾川左岸 蟹 江 間	8 軒330	同 年1月14日	同
富 八 田 間	4 軒380	同 年5月20日	株式會社西松組
八 名 古 田 間 (地下線を含む)	4 軒680	同 年1月18日	株式會社大林組
揖斐、長良及木曾 川橋梁補強工事	1 軒828	同 年11月9日	松尾橋梁株式會社
鋼鐵道橋製作並架 設工事			同 上
車 輛			三菱商事株式會社 日本車輛製造株式會社